

第8回「いのちの授業」大賞の結果について

1 結果

(1) 受賞者

神奈川新聞社賞

久里浜中学校 郷原 動（ごうはら ゆるぎ）さん（3年生）

作文名「助けの手を差し伸べる」

英語の授業で、ガーナ・チョコレートのフェアトレードについて知ったことを通して、自分にもできる社会貢献について考えた内容

(2) 概要

「いのち」のかけがえのなさや、夢や希望を持って生きることの大切さなどが実感できる授業をとおして、「いのち」について考えたことをテーマとした作文のコンクール

(3) 応募点数

9,230点

(参考) 賞一覧

- ・大賞（知事賞）
- ・教育委員会賞
- ・神奈川新聞社賞
- ・テレビ神奈川賞
- ・神奈川県PTA協議会会長賞
- ・ともに生きる社会かながわ憲章賞
- ・優秀賞

2 表彰式

(1) 日時

令和2年12月13日（日） 10:35～12:00

(2) 場所

神奈川県庁 本庁舎 大会議場

(3) 内容

受賞者の発表、受賞者による受賞作文の朗読、受賞者へのインタビュー 他

※当日は、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインでの開催となりました。

受賞者による作文の朗読やインタビューは、事前に収録したものが公開されました。

神奈川新聞社賞

助けの手を差し伸べる

横須賀市立久里浜中学校

3年 郷原 動

僕は小学校の頃、初めて外国に貧しい国があることを知った。

そして、中学三年生になり、ガーナという国が貧しいと言われていることを学習した。ガーナは僕の大好きなチョコレートになるカカオ豆の生産が盛んな国である。そのカカオ豆がとても安い値段で売られてしまっていることで、ガーナのカカオ農園の人々は生活することがとても苦しいそうだ。このことを耳にし僕は、今の自分の生活と比較してみた。

今の僕は、当たり前のように寝て、起きて、食べて、当たり前のように学校に行き、学習指導を受けている。これに対し、ガーナの子供たちは、学校に行くことすら珍しく、食べることもままならない状態らしい。

果たしてこれは、ガーナの子供たちと僕たち、平等とは言えるだろうか。僕は瞬時に「いいえ」と答えることができる。なぜなら、ガーナの子供たちは、僕の当たり前が全く当たり前ではないからである。この違いに対し、何かガーナの子供たちを救える取り組みはないのか、僕は調べた。

すると、「ユニセフ」や「フェアトレード」などがあつた。この二つの中でも特に「フェアトレード」に興味がある。

「フェアトレード」とは英語で「Fair trade」と書き「公正な貿易」という意味だ。「フェアトレード」とは一般貿易と何が違うのだろうか。

「フェアトレード」は生産者から消費者までの余分な流通経路がなく、その分、生産者への利益が高いそうだ。また、一般貿易と違い商品としてお店に並んだ時の値段が少し高いのが特徴だ。そのため、生産者へ送られる給料が多少でも高くできるらしい。

自分でも「フェアトレード」の商品を買えないか、調べてみた。すると、コンビニエンスストアなどでフェアトレード商品が自分の小遣いでも買えることがわかつた。

このように、中学生でも充分社会貢献ができる。そして、沢山の人がこの商品を購入すればその分、生産者へ多くのお金がいく。こうすることにより、ガーナの子供たちも当たり前のように寝て、起きて、食べて、学校に行き勉強できる。

今現在のガーナの人々は、短命でこの世を去る人がまだいる。しかし、このような活動への支援が増すことにより、その命は助かるかもしれない。僕はこの「フェアトレード」によって一人でも多くの人の命を助け、幸せにしたいと思う。